

第一問

- 一 ア 記憶 イ やっかい ウ 貧困 エ こくめい
- オ 慎重 カ 過敏 キ 原稿 ク きよだく

二 大人が子供に求める「個性」とは、大人が気持ちよく肯定できる範囲に収まるものでしかなく、「私」のような異物はそこからはみ出すものとして排除されてしまうから。

三 すべての り れている

- 四 A 受容 B 愛情

五 前者が、異物を受容しているかに見せかけて、それを社会的通念のなかで型にはめ、結局は排除することであるのに対し、後者は、異物を異物としてありのままに肯定し認め合うことである。

六 テレビ番組に求められているのは、視聴者の想定内での個性的なキャラクターなのだから、番組の収録が始まったらお約束どおり手を抜かず、そうしたキャラクターを演じきってほしいということ。

七 自分の想定や社会通念に収まるような多様性だけを認めそこに安住するのではなく、自己の存在を脅かすほどの異質な他者をも許容することで、それが馴致され排除されることのない社会がもたらされるとのこと。

第二問

- 一 A ウ B ア
- 二 イ 完了 終止形
- 三 ① めったになくすばらしいと思われた
② 知らないのと同様だと言うのだろう
- 四 自分の身が劣っていることを知ったなら、どうしてすぐに身をひかないのか
- 五 どうして仏道修行が不十分だと思ふことが、自分の仏道修行が不十分だと専ら認識することにならないのか
- 六 年の老いぬる
- 七 歓迎されないのに人と交わり、まして叶わないことを食欲に望むことが恥なので、まずは自分が劣っていることを知り、さらに無常をもわきまえて、身をひくようにしたらよいと考えている。

第三問

- 一 まさにとくりやうをもつてさきとなすべし。
- 二 王安石と張居正は政治を執り行う際にきまつて自分の考えを正しいと思ひこんで、周囲の者も進んでは彼らの間違いを正そうとしなかった。
- 三 夏原吉が怒りを抑える努力を重ねていくうちに、他者と争わず重大事にも動じない精神力を養ったように、些細なことに耐え忍んでいけば、大きな事業を成し遂げる度量を身につけることができるということ。